



ご挨拶

自治医科大学
看護学部長・大学院看護学研究科長
(兼) 附属病院副院長
水戸 美津子

3月に発生しました「東日本大震災」は未曾有の地震津波災害となりました。被害を受けられましたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。本学部では、この3月に卒業した学生の一人が津波により亡くなりました。国家試験に合格し、就職も決まっておりました。教職員一同、大変深い悲しみを感じております。心よりご冥福をお祈りいたします。その他の在校生や大学の建物等には大きな被害はなく、新年度を順調にスタートいたしております。

看護学部は、本年4月で10年目を迎えました。平成14年4月に看護短期大学を改組転換して4年制の看護学部となり、その後、平成18年4月に大学院看護学研究科（修士課程）を設置し着実に発展しながら現在に至っております。その間、多くの教職員やその他大学関係者のたゆまぬ努力、ご指導とご支援を得て、本年3月までに学部卒業生643名、大学院看護学研究科修了生33名を輩出しております。教育の成果指標の1つでもあります国家試験合格率は常に高い水準を維持しており、平成22年度国家試験においては、看護師・助産師共に100%の合格という成績でした。卒業生・修了生はそれぞれの臨床分野や地域で活躍し、医療保健福祉の発展に貢献しています。

本学部では学生の教育環境の充実のために、学生生活をサポートするための学年担当アドバイザー制度の創設と充実、臨床教育の充実のための附属病院との連携強化システムの構築、教育設備の改善として建設後40年を超えた校舎の修理・修繕等を行うとともに、教員の教育力向上のために授業研究会の開催等を進めてきました。その結果、教育環境としては充実したものになりつつあり、着実に成果を上げております。看護学教育体制としてはかなり整備されつつあります。また、4月から学部卒業生（平成17年度卒業生）2名と大学院看護学研究科修了生（平成22年度修了生）1名が教員（助教）として就任いたしました。十年という歳月をかけて、教育の成果が循環を始めたことを実感いたしております。

今後も、より一層、教育と研究の充実に努めてまいります所存でございます。今後とも、皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。



5月12日開催新入生懇親会
(理事長・学長・学部長を囲んで)



看護学部校舎と下野の地

学生生活の紹介

自治医科大学看護学部での学生生活を紹介します。各学年での学習や課外活動等、学生の皆さんにご報告いただきました。

各学年の近況報告

同じ夢に向かって

看護学部1年 戸上 颯貴

期待より不安が大きかった4月9日の入学式から、早いもので4ヶ月が経とうとしています。知り合いが一人も居なく、最初は不安でいっぱいでしたが、様々な県から集まった105名の同じ夢を持つ仲間とは、すぐに打ち解けることができ、‘初めて’が多い環境の中で日々、自ら精一杯看護学を学んでいます。授業は高校の50分授業から90分間の講義に変わり、医療従事者として大切な人間関係論、援助関係論などや、看護師にとって必要不可欠なコミュニケーション能力、リーダーシップ力を伸ばせるグループワークやセミナー、高校の生物よりもさらに細かく人体について学ぶ講義があります。毎日の講義の中で得るものがとても多く、テストなど不安な事も多いですが、新しい事が学べることに楽しさや期待を感じています。部活では先輩達がとても優しく、熱心にご指導や、同じ夢を目指す先輩として様々な勉強についてのアドバイスもして下さいます。時々、サロンや空き教室で勉強をしている先輩達の姿を見ると、私も一生懸命頑張らなくては！と気持ちが引き締まります。部活やサークルと勉強を両立している先輩方はとてもかっこよく、私達にとっての憧れです。これから学年が上がるごとに、出来る事が増え、実習もあり、ハードな日々が続く事もあるようですが、105名の仲間と苦難を乗り越え、授業や大学生活で学んだ事をたくさん吸収し、努力をして充実した4年間を送りたいです。



新しくできた仲間たちと
(左上が戸上さん)

看護学生 1年目をおえて

看護学部2年 小林 明日香

入学してから、早くも1年が経ちました。大学生活は毎日が新しいことの連続で、「日々成長」という感じの1年間でした。

授業が始まり、医療従事者の一員としての視点や対処方法、看護師としてのあり方などを学び、それまで漠然としていた「看護」ということについて、本質的な内容への理解が深まってきたように思います。また、授業内での意見交換やグループワークにおいては、様々な捉え方や考え方、意見を聞くことによって、自分の考えを見直す機会となり、いろいろな視点から考えることができるようになりました。

1年次後期にある「生活の理解実習」では、小児期から老年期までの各ライフステージにおける人々の生活について学びました。対象者と直接ふれあい、同じ生活を実際に経験することで、授業で学んでイメージしていたことが覆されることもあり、学んだ知識をよりいっそう深めることができた実習でした。

そして2年生になると、聴診や触診などのアセスメントの方法やポイント、疾病についての症状や治療の流れなど、1年次に学んだことを基盤とした実践的な内容の学習になりました。学ぶ内容もより具体的になり、看護師を目指す者としての自覚が一層沸いているところです。後期になると、病棟実習が始まり、様々な価値観を持った患者さんやその家族の方々との出会いがあると思います。その中で、どのような方に対しても、適切な判断・ケアを提供できるよう、今のうちから確かな知識と広い視野を身につけていきたいと思っています。



休み時間 教室にて (左手前が小林さん)

実習に向けて

看護学部3年 飯塚 千尋

入学から早くも3年目を迎え、5月から始まる臨床実習に向けて今までよりも一段と専門的な講義・演習が増える中で、同じ看護師を目指す仲間と共に勉学に励む日々を送っています。

3年生に進級した今、これまでの学生生活を振り返ると学業に部活にと充実した日々を送ることができたように感じます。昨年は初めての病棟実習である「日常生活援助実習」を行い、緊張と不安を感じながらも患者さんに対して自分ができることは何なのかを真剣に考え、実践することができました。また、病棟で働く看護師の姿から、今の自分に足りないものについて考えさせられました。

部活動については、私はRoute4 Jazz Orchestraに所属し、音楽に対する熱意を持った仲間と共に練習に励んでいます。部活を通して自分とは異なる考え方を持つ友人や先輩方と出会ったことによって、より視野の広い考え方ができるようになったと感じています。

これから実習が始まるにあたり、期待と共に実習をうまく乗り越えていけるか不安に感じることもあります。しかし、実習では臨床の場でしか学べないことを学ぶことができるので、これまで培ってきた知識と経験を生かしながら、広い視野を持ってたくさんの方の事を吸収したいと思います。そして、実習を通して自分自身が成長できるよう一日一日を大切にしていきたいと思っています。



採血の演習の様子（看護技術演習Ⅲ）

実習を通して学んだこと

看護学部4年 川田 美紀

私たちが自治医科大学看護学部に入學してから3年が経ち、この春から最上級生となりました。この3年間を振り返ってみると、様々な講義を受け、実際に実習でいろいろな方に出会い、たくさんの方を学ぶことが出来たと思います。

私は、3年生の時の病棟実習と地域での実習を通して、看護とは何か、どのような看護が必要であるかを考えることができました。2年生の時の初めての病棟実習では、病院に入院している患者さんという視点から、患者さんの状態や疾患、看護師さんがどのように関わっているのかを捉えることができませんでした。しかし、3年生の後半から始まった地域での実習では、病院に入院している患者さんではなく、地域で生活している方を対象としているため、看護職としてどのような看護が必要であるのかを考えることができました。このことから、地域で何かの疾患や障害を持って生活している人と病院に入院している患者さんに対する看護は別のものではなく、患者さんのそれまでの生活背景に目を向けて、その人に合った看護を考えていくことが必要であると気づくことができました。



いざ 講義に臨みます
(左から2番目が川田さん)

4年生になり、講義はさらに主体性を持つことが必要となり、各自の学びを深めるために積極的に学習していく姿勢が重要となりました。自分が深めたいと思うテーマを研究していくセミナーでは、今後の自分の看護に繋がると思うので、先生方にアドバイスを頂きながら取り組んでいきたいと思っています。また、来年の2月の国家試験に向けて勉強を進めながら、一緒に学んだ仲間との時間も大切に過ごしていきたいと思っています。

課外活動の紹介

充実した学校生活のために

看護学部自治会長 川本 史穂

あっという間に月日は過ぎ、私たち7期生は4年生となりました。今までお世話になってきた先輩方も卒業され、私たちが最上級生として後輩を率いる立場となり、自治医大看護学部の中心学年としての責任を感じます。看護学部自治会は1年生から4年生までのすべての学年から役員を募り、自治会長1名、副会長2名、会計2名、書記2名、カリキュラム委員5名、学習支援委員5名、広報・選挙管理委

員3名、会計幹事3名、サークル委員3名、環境委員6名で活動しています。主な活動としては自治会の新入生歓迎会や、上級生と下級生の交流会の実施、学生サロンの使い方の周知、学生サロンのコピー機管理、自転車のステッカについての説明や配布・再発行、医学部と合同で自治会サークルの管理、学校行事への参加や希望者によるボランティアの実施などを行っています。



看護学部自治会役員一同です
(前列左端が自治会長)

私自身自治会の役員として参加したことがなく、不安もありますが、看護学部の皆さんがより良い学校生活を送るために活動していこうと思っています。看護学部のつながりや、課外活動のさらなる充実を目指し、学業以外でも皆さんが充実した日々が送れるようにしていければよいと思います。分からないことばかりで多くの方にご迷惑をかけると思いますが、一年間頑張りますのでよろしくをお願いします。

看護学部学生寮自治会

看護学部3年 青柳 有香

自治医科大学敷地内の最奥に位置する建物、それが看護学部学生寮です。寮の運営には微力ながら、寮生が看護学部学生寮自治会として関わっています。

寮自治会は、寮生自身でよりよい寮生活を築き発展させることを目的とし、会長1名、副会長2名、書記2名、会計2名、会計監査2名、選挙管理4名、文献2名、環境整備2名、ランドリー2名の計19名で活動しています。主な活動内容は、寮内の各設備の管理運営、月1回の寮自治会役員会議、避難訓練や新入生入寮などの年間行事の運営、年に数回行われる看護学務課の方々や看護学部学生委員会の先生方との討論会などがあります。

私は昨年度、寮自治会長として活動に参加しました。寮自治会での活動は、勉強や部活、サークル活動と両立させて行うため、大変なこともあります。しかし、看護学務課や管理人室の方々に支えて頂き、寮生活を共にしている友達、何より寮自治会役員と助け合い、交流を深めることができました。また、寮生の意見を寮の運営に反映させるための活動であるため、やりがいがあり、充実した時間を過ごせたと感じています。

今年度新たに選出された役員は、戸惑うことも多いと思いますが、今後も寮自治会が寮の生活環境の発展と向上を目指し、役員同士が協力して活動が行えるよう願っています。



学生寮防災訓練

Route 4 Jazz Orchestra

看護学部4年 角田 奈緒子

Route 4 Jazz Orchestra (ルート4)は、現在医学部・看護学部合わせて約50名の部員で構成され、月・木に練習を行っています。ルート4は、年に1度行う定期演奏会の他、自治医科大学附属さいたま医療センターでのコンサートや薬師祭での演奏、エコライブ祭り、TBL(栃木ビックバンド連盟)など地域で行われる行事にも積極的に参加しています。

部員は楽器初心者が多く、楽器の経験者でもジャズに初めて触れる人がほとんどです。自分の思うように演奏できるようになることは容易ではなく、ジャズ特有のスウィングのリズムやグルーブ感をつかむことに苦戦することが多々あります。ですが、先輩や先生のご指導を受け、練習に取り組むことで、初心者も2ヶ月後にはイベントで演奏に参加し、1年後の定期演奏会では数曲をしっかりと演奏できるまでになります。くじけそうになることもありますが、演奏がうまくいった時の達成感は大きく、励みとなります。



平成22年 定期演奏会

部員は個性的で楽しい人が多く、しっかり練習をしますが、合間には談笑をしたり、部活外でも部員で食事に行ったり出掛けるなど楽しく活動しています。ま

た、同じ時間を共にする仲間の存在は大きく、心の支えとなり原動力になります。ルート4は歴史が長いので、今後も活気のある部活であり続けて欲しいと思います。

女子バスケットボール部

看護学部3年 野澤 葉子

私たち女子バスケットボール部は、現在看護学部3年生5人、2年生6人、1年生5人、医学部5年生1人、3年生1人、1年生2人に加え、男子バスケットボール部の3年生2人にコーチを依頼し、22人で活動しています。

練習は毎週火曜日と土曜日の2回、大会前などは合宿を行ったり練習を増やして秋と春にある大きな大会で優勝することを目標に、日々練習に励んでいます。そのため厳しいメニューも少なくありません。しかし、辛いことばかりではなく、女子バスケットボール部にはさまざまな楽しいイベントがあります。夏にはキャンプがあり、バーベキューやラフティングをしたりします。またOG会を行い、先輩方と交流を深めたり、冬には男子バスケ部と合同でスノボツアーに行きます。同学年同士はもちろん、先輩・後輩、男子バスケ部との仲もとても良く、毎回ワイワイ楽しんでいます。そのほかにも新入生歓迎会、幹部交代、クリスマス会、忘年会、追コンなど行事が盛りだくさんです。



昨夏のキャンプにて

女子バスケットボール部は、一緒に笑って一緒に泣いて、時には励まし合える仲間がいる、どの部活にも負けたくない最高の部活だと思います。こんな風楽しく部活ができてるのは多くの人の支えがあってこそです。私たちはそのことを忘れずに、感謝の気持ちを持って、これからも活動していきたいと思っています。

女子バスケットボール部は、一緒に笑って一緒に泣いて、時には励まし合える仲間がいる、どの部活にも負けたくない最高の部活だと思います。こんな風楽しく部活ができてるのは多くの人の支えがあってこそです。私たちはそのことを忘れずに、感謝の気持ちを持って、これからも活動していきたいと思っています。

Special thanks !

薬師祭実行委員会 小林 結花

自治医科大学では、薬師祭を成功させるために、医学部、看護学部合同で実行委員会を構成しています。第39回の薬師祭は、前年度中止になってしまった分盛大なものにしようと、たくさんの部門が立案から当日まで、全員が本気になって取り組みました。

私は入学前に何度か薬師祭を訪れ、「私もこんな学園祭を作りたい」と思い実行委員会に参加しましたが、大学生活に慣れないうちから企画の検討会が続いたり、先輩から仕事を任されたりと、不安ばかりで、毎日が忙しく、実行委員になったことを後悔したこともありました。しかし実行委員会には、支えてくれる友人や、的確なアドバイスをくださる先輩方がいました。一人だとくじけてしまうことも、仲間と一緒に乗り越えられると実感しました。私は今回の薬師祭で、素晴らしい仲間を得ることができたと共に、たくさんの人の優しさ、努力、熱意に触れ、大きく成長できたと感じています。



実行委員集合！

今年度の薬師祭実行委員会に、私は後輩の立場だけでなく先輩の立場としても臨みます。上級生と下級生の架け橋となって、みんなが一つになれる、そしてみんなが笑顔になれる、たった一つの最高な薬師祭にしたいです。

看護学部卒業生の紹介

今年の3月で、看護学部卒業生は643名となり、全国の臨床の第一線で活躍しています。3月に卒業した第6期生を始め、卒業生および同窓会からのメッセージを紹介します。

自治医科大学看護学部第6期卒業生

第6期卒業生から 日光彫演台が寄贈されました

看護学部においては、代々卒業生から卒業記念品として、思い出に残るすばらしい品を寄贈していただいております。平成22年度は、看護学部第6期卒業生一同から、日光市在住の日光彫の伝統工芸士五十嵐輝吉先生作の演台が寄贈されました。記念品の贈呈式は、平成23年3月1日（火）に看護学部学習室にて行われ、水戸看護学部長、事務副部長、学年担当教員及び卒業生代表の手により幕が落とされると参列者から歓声があき、卒業生及び教職員にとって思い出深い贈呈式となりました。

平成23年3月4日（金）に行われた卒業証書・学位記伝達式では、寄贈された演台を使用し、卒業生に卒業証書・学位記を手渡すことができました。

今後も、看護学部で行われるイベントや学会等において、大切に活用させていただきます。



第6期卒業生記念品贈呈式 記念撮影

学長賞受賞者の紹介

平成23年3月4日（金）、地域医療情報研修センター大講堂において、多数の来賓、保護者の出席の下、平成22年度自治医科大学卒業式が厳かに挙行されました。

毎年、学業成績及び人格が優れた卒業生に対して、学長賞が授与されますが、看護学部からは阿久津佳子さん、伊藤愛さん、遠藤睦実さんの3名が選ばれ、卒業式において高久学長から賞状と記念品の盾が授与されました。また、伊藤愛さんには看護学部第6期生114名を代表して高久学長から卒業証書・学位記が授与され、遠藤睦実さんからは答辞が述べられました。



平成22年度卒業式にて（学長賞授与）

卒業生の動向

【進路状況】

進路の内訳		平成20年度 (第4期生)	平成21年度 (第5期生)	平成22年度 (第6期生)
就 職	自治医科大学附属病院	28名	50名	57名
	自治医科大学附属さいたま医療センター	28名	10名	16名
	その他の病院等	36名	42名	38名
進 学		9名	0名	3名
その他		4名	1名	0名
合 計		105名	103名	114名

(各卒業年度3月末日現在)

【国家試験合格率】

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度
保健師	98.1 (97.7)	89.2 (86.6)	94.7 (89.7)
助産師	100.0 (99.9)	80.0 (83.1)	100.0 (98.2)
看護師	95.7 (89.9)	98.9 (89.5)	100.0 (96.4)

単位% () 内は全国の平均合格率である。

自治医科大学看護学部同窓会



会長 渡邊 瑠美

私は4期生（2008年度卒業）で、自治医科大学子ども医療センター子どもの心の診療科で看護師をしています。2011年4月より「自治医科大学看護学部同窓会」（以下同窓会）の会長に就任しました。入学式や卒業式では在校生そして保護者の皆様とお会いしますので、どうぞよろしくお願ひします。

同窓会は、2006年4月に第1期卒業生の有志により創設されました。会員相互の親睦を図り、自治医科大学看護学部の発展に寄与することを目的としています。毎年卒業生の9割以上が入会をしており、会員数は現在600名程です。

同窓会の活動は、主に連絡先等の会員情報の管理と同窓会名簿の作成、年1回の同窓会通信の発行です。さらに2009年度からは「自治医大地域医療フォーラム」において、看護学部と共催して看護フォーラムを行っています。昨年度は看護師、保健師、助産師別に、その職業で働く方々からの職務に関連するテーマでの発表とディスカッションを行いました。自分の職業を見つめ直し、他職種と情報交換を行うことは非常に貴重であり、大変有意義な時間でありました。看護フォーラムは在校生の方の参加も可能ですので、今年度も多くの方々の参加をお待ちしています。

一方、同窓会を運営する上での課題も多々残されています。役員が若く、各自仕事をしているので、同窓会の活動を十分に行うことが難しい現状です。今後同窓会の活動を更に発展すべく、本年度は同窓会の活動方法の見直しと、同窓会として期待される役割を考えていきたいと思ひます。在校生の皆様からも同窓会へのご意見、ご要望がありましたら、看護総務課前の同窓会メールボックスまでお願い致します。今後も在校生、保護者の皆様には同窓会の活動をご理解いただき、温かいご支援をくださいますよう、よろしくお願ひいたします。

卒業生からのメッセージ

自治医科大学附属病院 看護師 粕谷 未来（第5期卒業生）

私は現在、自治医科大学附属病院の血液内科病棟で2年目の看護師です。

この病棟は入退院を繰り返す患者さんが多いところで、実習時に受け持った患者さんと就職してから再会したこともありました。そして、その患者さんから「またよろしくね。」と声をかけられたこともあり、とても嬉しかったこと覚えています。私たちの病棟は化学療法による治療を中心としていて、点滴管理が主な仕事です。それに加えて、患者さんの体調管理や精神的ケアなどを通し、抗がん剤の副作用を少しでも軽減できるよう援助することも重要な仕事です。私にはまだまだわからないことも多く、そのたびに学ぶ日々が続いています。時には失敗して落ち込むこともありますが、患者さんとの出会い、そして、温かい職場の先輩や同期の看護師、学生時代の恩師が仕事の支えになっています。

今でこそ、この病棟で看護の仕事をしています。大学に入学した頃は、自分がどのような看護師になりたいかという目標もなく、「血液内科」という言葉も知りませんでした。そんな私が、就職時に「血液内科希望です。」と迷いもなく言葉にすることができたのは、大学4年間の学びと経験があったからだと思っています。

直に患者さんと接し、現職の看護師の方から助言を頂くことのできる病棟実習では多くのことを得ることができました。いくつかの病棟を回る実習の中で、特に自分にとって印象に残った実習先が今働いている血液内科でした。はじめは、なかなか患者さんとうち解けることができず、さらには化学療法による副作用に苦しむ患者さんに対し何をしたらいいのかわかりませんでした。しかし、仲間や先生とそれぞれの受け持ちの患者さんに対し「何ができるか」、「どうしたら苦痛を緩和できるか」を何度も話し合い、それを実践しては学ぶということを繰り返すうちに、患者さんにも自分の誠意が伝わり打ち解けることができようになりました。実習では十分なケアはできませんでしたが、患者さんとともに化学療法に臨む姿勢を学ぶことができました。

これからも初心を忘れず、患者さんと向き合い、日々自己研鑽できる看護師を目指しがんばっていききたいと思っています。



同僚のナースと
（右が粕谷さん）

看護学部教員および活動の紹介

看護学部には、47名の専任教員が在職しています（平成23年6月1日現在）。

本誌では、看護学部からの情報提供として、各委員会委員長及び学年担当アドバイザー総括責任者にご寄稿いただきました。

学生教育の現状と課題

～現行カリキュラムの完成と総合分野科目について～

教務委員会委員長 春山 早苗



現行カリキュラムは、【基礎科学分野】、【看護学分野】、【総合分野】の3分野から構成され、【総合分野】では、基礎科学分野や看護学分野で学んだ知識や技術も併せて実践の中で総合的に研鑽することにより、創造的に看護実践の開発を追究していくための基礎能力を身につけることをめざしています。看護は、常に対象との人間のかかわりの上に成り立つものであり、これを事実として自分自身でとらえ、表現できることが専門性を深める第一歩となります。そして、そのためには自分自身の行動や意識を含めたありさまを的確に自己評価できること、看護援助の際には対象の人間の反応を含めて事実を評価しながら進めていくことが必要となり、卒業時には、これらを全て自立して実施できることが求められます。本学部では、このような看護職として生涯にわたり専門性を深めていくための基礎能力を育成するために、1年次に「看護基礎セミナー」、2年次に「文献講読セミナー」、3年次に「研究セミナー」、4年次に「総合実習」、「看護総合セミナー」の科目を配置し、1年次から4年次にかけて段階的に基礎能力を積み重ねていけるようにしています。また、4年次の科目については、学生自身の関心や考えている卒業後の進路に基づいて、主体的かつ創造的に学べるようにすることを重視しています。看護職には、いかなる状況に対しても、知識、思考、行動というステップを踏み、最善の看護を提供できる人として成長していく基盤となるような教育の提供が不可欠であるといわれていますが、現行カリキュラム4年目を迎える今年度は、【総合分野】の教育の成果と課題を確認し、保健医療福祉の変化や国民の期待に応えることのできる看護職の育成のためにカリキュラムの充実を図っていきたいと考えています。

国家試験対策委員会

国家試験対策委員会委員長 渡邊 亮一



本学部に入學した学生にとって、国家試験に合格することは、本学部を卒業することと並んで、在学中の大きな目標である。この国家試験を受験する学生が全員合格するようにサポートするのが、国家試験対策委員会の役割である。国家試験対策委員会は、現在、6名の委員で組織されているが、この委員会で行っている学生に対する主な支援策は、①国家試験の学習に関する指導・相談に応ずること、②国家試験対策の模擬試験を実施すること、③国家試験対策ゼミを実施すること、④国家試験受験のための出願手続きを行うことなどである。

①の「国家試験の学習に関する指導・相談に応ずること」については、国家試験対策委員会の各委員が、約20名の学生を受け持ち、受け持ち学生の学習指導、相談に対する対応などを行っている。②の「国家試験対策の模擬試験を実施すること」については、年に看護師3回、保健師2回、助産師2回の模擬試験を実施し、この結果を用いて①の学習指導等を行っている。③の「国家試験対策ゼミを実施すること」については、国家試験対策委員会委員以外の教員にも協力してもらい、12月から1月の間に、国家試験対象科目のゼミを、1科目について1～2コマ程度で実施している。④の「国家試験受験のための出願手続きを行うこと」については、看護学務課の職員を中心に、国家試験出願の説明会、国家試験願書の作成・出願、受験票の配付などを行っている。

最後に、本学部の国家試験対策は、国家試験対策委員会が中心になって推進してはいるが、すべての教職員の協力によって行われていることを付記しておきたい。

学生委員会の紹介

学生委員会委員長 竹田津文俊



学生委員会は、「学生が健全な学業生活を送ることができるよう支援する」委員会です。具体的には、学業（課外活動も含む）の奨励・支援、学生の学業生活上生じた様々な障害や問題、健康問題解決、経済的問題、進路決定などの支援を行っています。本学部には、女子学生寮があり、健全な寮生活の支援も本委員会が担当しています。本委員会の活動は、本学部の事務を所掌する看護学務課、看護総務課と緊密な相談・連携のもと行っています。

学業生活上生じた様々な障害や問題の解決への支援を、各学生委員と学生との直接相談、学年担当アドバイザーとの緊密な連絡相談、カウンセリングルーム活用の奨励などを通して行っています。

健康問題解決への支援は、学生健康管理チームが中心となって行い、また大学保健室の行う検診への受診の奨励、個々の学生の健康相談などを行っています。

学生への経済的支援は、主に奨学金の斡旋という形で行っています。斡旋する主な奨学金は、自治医科大学看護学部奨学金、日本学生支援機構奨学金です。これは、学生委員会が直接所掌していることではありませんが、新たな学生への経済的支援として、平成21年度より、本学においても、日本社会全体の景気低迷による保護者の経済破たんによる就学困難学生への就学資金（授業料等）の援助が開始されましたことを報告させていただきます。具体的には授業料等の免除・徴収猶予の制度が設けられました。

学生の将来の進路決定の支援は、進路指導担当が中心となって行っています。

本学部の学生は学生自治会を、寮在住学生は寮自治会をそれぞれ組織し、自主的に運営しています。これら自治会への支援は、学生委員会と両自治会役員との懇談を通して行っています。寮生活そのものの支援として、入寮案内、寮生活オリエンテーション、防災訓練などを行っています。

部活動、クラブ活動、サークル活動などの課外活動、薬師祭（学園祭）を、学友会（本学部では、学生委員会が所掌）を通して奨励しています。

最後になりますが、4学年卒業予定者のなかより、学長賞候補者を選考することも本委員会の大切な仕事です。

学年担当アドバイザーの役割と本学の学生の状況

学年担当アドバイザー 総括責任者 大塚 公一郎



学年担当アドバイザーは、学業や人間関係の悩みなど学生生活のさまざまな問題の相談窓口となります。学生の自主性を尊重しながら、安心して大学生活を送ってもらうための総合的なサポートをします。本学部のカリキュラムや実情に通じたベテラン、若手からなる各学年あたり3名の専任教員が担当となっているため、学生に対し迅速できめ細かなアドバイスをすることができます。私は、精神科医ですが、学年担当アドバイザーの総括責任者をつとめており、大きな問題を抱えた学生の場合に、他のアドバイザーとともに対応にあたります。

去る3月11日に起きた東日本大震災で大きな被害を被った東北、北関東の各県出身の学生さんも本学部には少なからず在籍しており、ご家族の被災やご不幸についての情報も次々と入ってまいりました。今回のことで、私が本学部の特色がよく出ていると感じたのは、震災後まもないある日、私が出先から戻ると、学年担当アドバイザーも含めた多くの有志の教員、事務職員が、はやばやと学生の支援にのり出していたことです。休日にも関わらず、複数の教員が交代で、学生寮などで被災地出身の学生たちと茶話会などを行い、相談にのりました。つらい経験をしたにもかかわらず、学生さんたちも、今のところ、概ね学業に勤しんでおり、心配された心のケアの問題も大きくはないようです。学年担当アドバイザー一同は、このような本看護学部教職員の親身な学生支援の伝統を生かしながら、保護者の方々とともに、学生さんをサポートしていきたいと思えます。

教員の研究の現状と課題

研究推進委員会委員長 半澤 節子



高校までの学びと違って、大学での学びはいかに主体性を持った姿勢が問われるかを先日1年生を対象とした授業の冒頭で述べた。今回「教員の研究」というお題をいただき、「教育研究者」として大学教員を主語にして同様のことが言えると気付いた。つまり、看護学を学問として発展させるためには、既存の知識を学生にわかりやすく伝えるとともに、伝える

内容そのものを現状に見合うよう、見直したり新たな知見を加えたりといった発展が必要であり、大学教員はそうしたプロセスに主体性を持って取り組むよう期待される。

近年看護学領域の国際交流が活発になっており、看護学の研究成果が国際的な学術会議で報告されている。そこでは日本の保健医療は世界的にみてどのような位置づけにあるのかを知る機会ともなる。また、学際的な研究への関心という点も重要である。看護学は保健医療というフィールドでは後発の学問であり、末っ子とまでは言わずとも兄や姉から学ぶべきことは多い。その意味で他学問との学際的な視野を得ていくことは、看護学という人生の苦悩を経験する人を支える実践科学の発展において不可欠であろう。このたびの災害をみても、人生の苦悩は突然に襲い掛かるとしても、安心して苦悩を経験できる支え合う環境を育むために看護学が貢献できることを切に願うものである。

教員の教育力向上のための取り組み

FD評価実施委員会 委員長 中村 美鈴



授業は、教える側の教員と習う側の学生さんたちとの相互作用と協働によって創られています。また、より良い授業にするために、看護学部ではファカルティ・デベロップメント (Faculty Development: 以下 FDと略す) 評価実施委員会が2004年の看護学部開設時から設置され、組織的に取り組んでいます。FDとは、授業内容・方法を改善し、向上させる諸活動の総称です。

この委員会では、教員の教育力向上のための取り組みとして、年に2回の授業研究会を開催し、どうすればより良い授業、教育力の向上に繋がるのかについて、教員全員でディスカッションの後、今後の方向性を見出しています。具体的には、授業に対する学生さんたちの声・反応をもとに授業評価や授業に対する希望、改善点を抽出し、わかりやすい授業、学生参加型の授業、眠むくならない授業など、より良い教授方法を常に検討しています。

平成22年度は、「看護学部教員のFDにおける現状分析とニーズの把握を行い、それぞれの教員が自己の課題を明確にし、今後の改善・向上に取り組むためのFD方法を検討する」という目的のもとにFD授業研究会を開催しました。この研究会には、専任教員・臨床教員54名が出席しました。研究会の成果として、今後どのようなFD活動を展開していくべきか、具体的な内容と方向性が明確になりました。このように看護学部の全教員が学生さんたちの声や反応、評価を最も大切にしながら、自らの教育力向上に邁進しております。そして、将来、自治医科大学看護学部の教育理念に沿った看護専門職に育つことに期待しています。

【看護学部教員一覧】

職名	氏名	教育・研究に関する専門分野	職名	氏名	教育・研究に関する専門分野	職名	氏名	教育・研究に関する専門分野	
学部長	水戸美津子	老年看護学	准教授	小原 泉	成人看護学	講師	長井 栄子	老年看護学	
教授	竹田 俊明	看護基礎科学		齋藤 良子	母性看護学		助教	野崎 章子	精神看護学
	竹田津文俊	看護基礎科学		佐藤 信枝	基礎看護学			樋貝 繁香	小児看護学
	塚原 節子	基礎看護学		里光やよい	基礎看護学			松浦利江子	成人看護学
	永井 優子	精神看護学		鈴木久美子	地域看護学			荒木 智絵	成人看護学
	中島登美子	小児看護学		高木 初子	老年看護学	板橋 直人		精神看護学	
	中村 美鈴	成人看護学		浜端 賢次	老年看護学	北村 露輝	成人看護学		
	成田 伸	母性看護学		村上 礼子	成人看護学	小池 純子	精神看護学		
	野々山未希子	母性看護学		横山 由美	小児看護学	島田 裕子	地域看護学		
	春山 早苗	地域看護学		講師	飯塚 秀樹	看護基礎科学	関山 友子	地域看護学	
	半澤 節子	精神看護学			宇城 令	基礎看護学	高山 詩穂	基礎看護学	
	本田 芳香	基礎看護学			小川 朋子	母性看護学	滝 恵津	基礎看護学	
	宮林 幸江	老年看護学			川上 勝	老年看護学	段ノ上秀雄	成人看護学	
	渡邊 亮一	看護基礎科学	工藤奈織美		地域看護学	西岡 啓子	母性看護学		
大塚公一郎	看護基礎科学	角川 志穂	母性看護学		和久 紀子	基礎看護学			
准教授	大脇 淳子	小児看護学	塚本 友栄	地域看護学					

平成22年度学校法人自治医科大学決算等の状況について

平成23年5月31日に開催された理事会及び評議員会において、平成22年度学校法人自治医科大学決算及び事業報告が承認されました。決算の概要並びに看護学部の平成22年度の事業概要報告は次のとおりです。

1. 平成22年度学校法人自治医科大学決算の概要について

- ・資金収支計算書（別図1）
1年間の収入又は支出した金額（現金ベース）を、主として科目別に分類して表した決算書です。
- ・消費収支計算書（別図2）
企業会計で用いられている損益計算書と類似しており、学校法人の経営状況を表した決算書です。
- ・貸借対照表（別図3）
22年度末時点での固定資産や現預金、負債等の保有状況を表した財務書類です。

2. 平成22年度事業の概要について

自治医科大学は、医療に恵まれないへき地等における医療の確保向上及び地域住民の福祉の増進を図るため、昭和47年に設立されました。

看護学部は、高い資質と倫理観を持ち、地域住民の保健・医療及び福祉に貢献し、高度な医療並びに地域の看護に従事できる総合的な看護職者を育成することを目的に平成14年に開設され、今年10年目を迎えました。平成22年度は、主に次の取り組みを実施し、教育・研究の質的向上を図りました。

①学生教育に関すること

保健師助産師看護師法及び看護師等の人材確保の促進に関する法律の一部改正に伴い、保健師及び助産師教育の充実を図るため教育課程改正の検討を開始しました。

また、臨床実習指導研修会等を通じて、学習指導方法や学生支援方法等について検討を行い、看護職に求められる知識・技術が確実に習得できるよう実習教育の拡充に努めました。

②国家試験対策に関すること

国家試験を受験する4年生を対象に、看護師、保健師、助産師の模擬試験を実施しました。また国家試験対策ゼミの終了後に評価するアンケート調査を行い、次年度の国家試験対策のさらなる充実に向けて検討することとしています。

③学生の受入れに関すること

学習意欲を持ち、適正の高い学生を確保するため、受験生の情報の入手状況などを把握し、重点的に広報活動を実施しました。また、看護学部のアドミッションポリシーを周知する直接の機会として、オープンキャンパス、進学説明会、高等学校での模擬授業を実施しました。

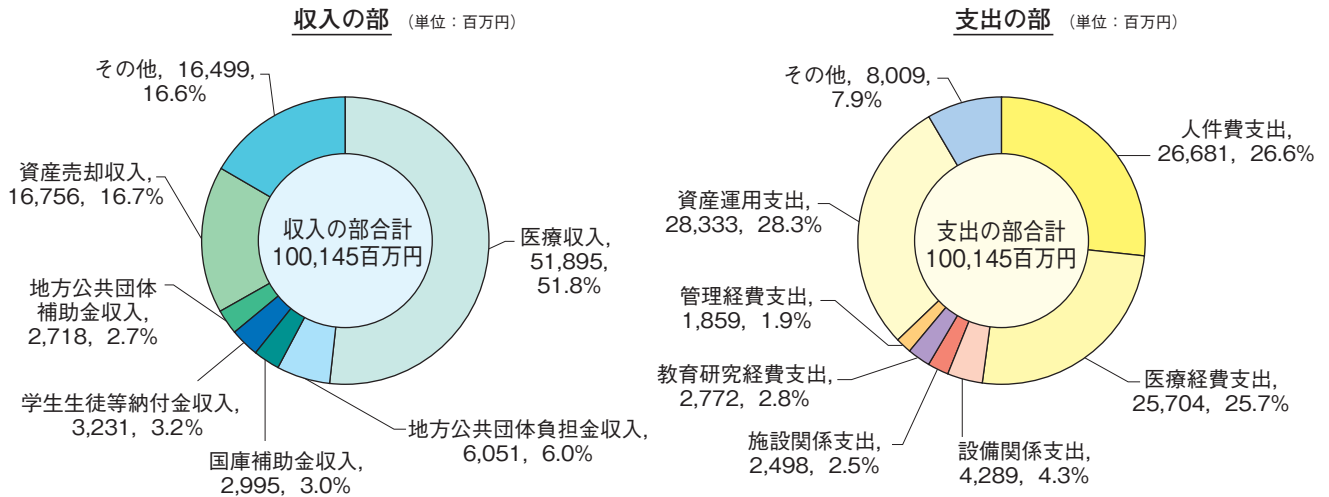
④学生の支援に関すること

学生委員長と学年担当アドバイザー総括責任者との連携を密にするとともに、学年担当アドバイザーによる月例報告を一層充実させ、生活指導及び相談体制の強化に努めました。

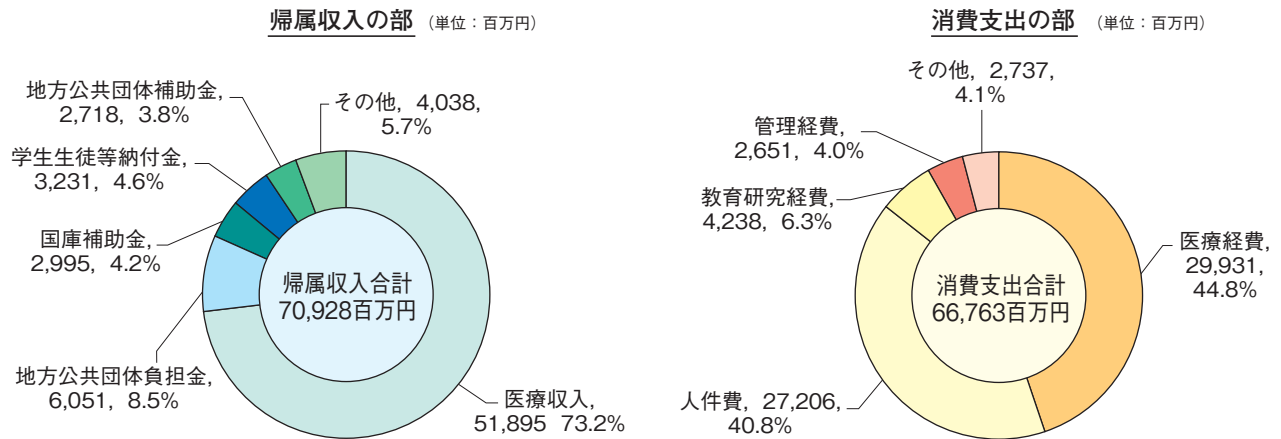
⑤研究に関すること

研究費や研究時間の確保等、研究環境の改善に努め、附属病院看護部との連携を図りながら、共同研究を推進しました。また、「研究活動評価票」に基づく教員の研究自己評価方法を策定し、平成22年の研究活動評価を行いました。

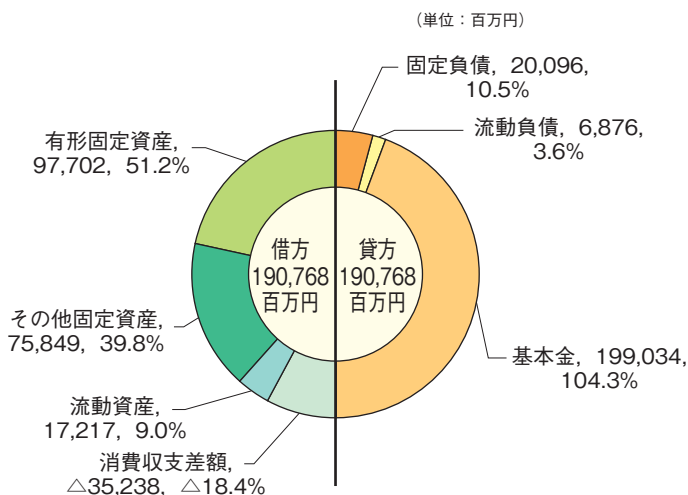
別図1 平成22年度決算 資金収支計算書



別図2 平成22年度決算 消費収支計算書



別図3 平成22年度決算 貸借対照表



※財務状況等の詳細は大学ホームページ <http://www.jichi.ac.jp> の「情報公開」でご覧になれます。

編集後記

今号のビタミンN第8号では、学生の大学生生活の様子や卒業生の近況報告に加え、各委員会の委員長にも寄稿いただきました。今後も魅力的な誌面づくりに努めてまいりますので、ご意見等をお寄せいただけますと幸いです。

(広報委員会 齋藤、飯塚)

ビタミンN 第8号

発行日 平成23年7月22日

発行 自治医科大学看護学部

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺3311-159

TEL 0285-58-7409 (看護総務課)